

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立東吾嬬小学校
校長名	齊藤 伸治

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">各教科の観点別指標 51 項目のうち、43 項目で目標値を上回った。国語・算数は全学年(2~6年)の全項目で目標値を上回った(国語の上回り平均+10.1、算数の上回り平均+9.3)。4~6年の社会・理科は、全6項目のうち、4年生が全項目で目標値を上回った(社会の上回り平均+12.4、理科の上回り平均+6.2)。6年の英語は、全項目で目標値を上回った(上回り平均+5.0)。	<ul style="list-style-type: none">社会の3観点項目では、5年が「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」で、6年が「知識・技能」及び「思考・判断・表現」で項目で目標値を下回った。観点別項目の目標値との差は、5年が平均-1.1、6年が平均+0.6。理科の3観点項目では、5年が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」すべてで目標値を下回り、目標値との差の3項目平均が-6.4となった。6年は「知識・技能」で目標値を下回り、目標値との差の3項目平均が+3.2となった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">「学校の授業の予習・復習をしている」への肯定率が、4年 48.1%、5年 58.9%、6年 54.1%で全国を上回っており、授業での学習内容を理解し、定着させようという意識が見られる。「テストで間違えた問題をあとでやり直している」への肯定率が4年 90.4%、5年 89.3%、6年 83.6%で全国を上回っており、内容を正しく理解しようという意欲が見られる。その他の学習習慣・学習意欲の項目でも全国を概ね上回っている。	<ul style="list-style-type: none">6年D層の「学校の授業の予習・復習をしている」への肯定率が75%である。学習に取り組んでいるが結果に結びついていない児童は各学年にいることから、努力したことが理解・定着に結びつくように、効果的な学習方法等のアドバイスをすることが求められる。4年D層の「学校の授業以外で週に何日勉強しているか」への「3日以下」の割合が75.1%である。まだ学習に十分には取り組めていない児童は各学年にいることから、こうした児童の学習意欲を高め、学習習慣を定着させることが必要である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査で、観点「知識・技能」が全国平均より国語+11.8ポイント、算数+13.9ポイントであり、学習内容の定着が見られる。観点「思考・判断・表現」は国語が+17.1ポイント、算数が8.2ポイントであり、知識等を活用する力も高まっている。・全学級で授業規律が保たれ、児童が意欲的に学習している。	<ul style="list-style-type: none">・テスト等で文章、図、グラフ、表などの複数の資料を読み取って回答する問題や記述して回答する問題に一部児童に無回答の傾向が見られる。・理科の授業で、実験方法を児童が考え、結果を予想し、検証する実験を行う等、理科や社会で授業を工夫している。この工夫を児童の学力の定着・向上に結びつけることが課題である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 教員の指導力・授業力を高めるための組織的な取組

- ・社会・理科の指導力・授業力を高めるため、教務部及び校内研究委員会とで本校児童の社会・理科の課題を分析し、学力向上計画を策定し、全学年で実施する（低学年は生活科）。
- ・社会科部会・理科部会で、教育研究所の社会・理科指導向上のための資料を基に、本校での社会・理科指導での授業プランを提案し、3～6年の授業で実践する。
- ・毎月の自主研修会で、資料を読み取り記述回答する問題への指導方法を研修し、各学年の授業で実践する。

(2) 確かな学力を育てるための分かりやすい授業の実施

- ・「区振り返りシート」「東京ベーシックドリル」を活用し、基礎・基本の定着を図る。特に、社会と理科では年度末にも実施し、結果を基に各児童の課題を明らかにして、「ミライシード」等に家庭でもタブレット端末を活用して取り組ませ、児童一人一人の学習の改善を進める。
- ・週5回の放課後学習教室で、教員と補習教室指導員とで指導し、参加児童の学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り、学力の向上につなげる。指導教科は算数・国語に社会・理科を加える。

(3) 保護者・地域と連携した取組

- ・毎月、学力向上に関する通信を発行し、本校の児童の課題とその改善策について、学校の授業で取り組むこと、家庭学習等の家庭・地域で取り組んでいただきたいことを伝え、学校と保護者・地域とが連携して児童の学力向上を図る。
- ・「生活リズムチェック」等の望ましい生活習慣を継続する取組を家庭と連携することにより、児童の生活の安定と学習環境の維持・向上を図る。

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・本校平均正答率を、全国平均より国語・算数・英語で+5ポイント以上、社会・理科で同等以上
- ・各学級のD・E層の人数及び割合について、学級担任作成の「学力向上プラン」の目標値達成
- ・意識調査で、学習習慣・学習意欲に関する肯定率を全項目平均で60%以上